

2023 年度
近畿医療専門学校 自己評価報告書（案）

2024 年 3月19日（火）

文部科学省 生涯学習政策局
専修学校における学校評価ガイドライン
（平成25年）準拠

I. 評価の項目

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、以上の10項目について評価を行う。

1. 学校の教育目標

本校の教育理念である社会貢献・人材育成・奉仕の精神という3本柱を基に、確かな技術と共に社会奉仕の精神を養い、人格共々優秀な人材の育成を目指している。

そのために、現在の高齢化社会を支えるため、奉仕の精神を礎に人材育成に努め、その立場と責任を職員・学生すべてが心に刻み日々精進することに努めている。

また柔道整復師・鍼灸師としての施術のみならず、業界としてスポーツの分野や介護・福祉の分野においても求められてきており、そのニーズに対応できる即戦力としての人材の育成を目標としている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①新卒者の国家試験合格率、受験率の向上
- ②退学者の減少
- ③内部進学制度を充実させ、入学者数の増員を図る
- ④積極的な就職活動意欲向上の働きかけ
- ⑤人間力向上に向けた基礎的コミュニケーション能力の徹底

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
b	学校における職業教育の特色は何か。	4 ③ 2 1
c	社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	④ 3 2 1
d	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4 ③ 2 1
e	各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	④ 3 2 1

《課題と改善策》

- a. 本学は、統合医療に関する正しい知識と確かな技術を授け、医療人として必要な能力を育成し教養を向上させることを目的としており、教育目標の達成に向け教職員が一致団結し取り組んでいる。また、これらの理念は教職員のみならず学生に対しても周知徹底している。
- b. 鍼灸師及び柔道整復師の資格取得はもとより、卒業後直ぐに即戦力となる人物を育成すべく臨床における心構えを基礎とした幅広い施術分野の技術修得のカリキュラムを構成している。
また、本校の特色である施術の修得を希望する者に対しては、放課後や休日など受講しやすい日程を設定することで施術セミナーに参加しやすくし実践力向上に役立たせている。
その他、臨床において必要とされるコミュニケーション力やトレーナー業務などの特別講義を外部から講師を招き実施しており、メンタル面並びにフィジカル面での臨床能力の向上を目指した教育を行っていききたい。
- c. 鍼灸師及び柔道整復師の社会的知名度は上がってきてはいるが認知度が未だ低い。
そのため、より一層の社会変化や社会ニーズに応えるべく開校した「スポーツ科学コース」では運動能力を科学的に測定し分析することで、よりの確な運動指導ができる人材を育成している。
さらに、本校独自の施術法のセミナー開催などと統合することにより、外傷による施術効果の確認や施術指針の組み立てのみならずスポーツ障害の予防やトレーニングメニューのアドバイスまで行い、外傷や未病に対して確たる技術で対応できる人材育成を目指している。
- d. 年度初めのオリエンテーションにて、学生への周知を行っている。
また、特色や将来構想においてもホームページやパンフレットで告知しており、入学前の段階で把握しているものとして考えている。
さらに、入学前のオープンキャンパスや入学説明会では、なるべく保護者の参加を呼びかけており保護者に対しても本校の特色や職業に対しての正しい認識を持っていただくよう心掛けている。
今後は社会情勢をみながら保護者会の開催や書簡などを通じ、本校の職業教育の周知を徹底させていききたい。

- e. 教育課程編成委員会及び学内就職セミナー等を開催することで行政や企業等各業界関係者からの意見並びに学生から回収したアンケートを基にして学習計画へ反映させる努力を行っている。これにより業界や職種のニーズに対応できる教育を実践しているが、業界のみならず社会のニーズに関しては常に把握していく。

(2) 学校運営

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1
c	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1
d	人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1
e	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1

《課題と改善策》

- a. 学校の教育理念である「社会貢献・人材育成・奉仕の精神」を教務室や事務室に掲示している。また、就業規則、育児休業規程、給与規程、法令遵守規程などの諸規程が整備されている。
- b. c. 理事会及び評議委員会により運営方針や事業計画を策定している。また校内の組織図があり、それに従って運営されている。各部署には学校運営の役割と権限、人的体制が十分に整っており運営組織や意思決定機能は効率的なものになっている。
- d. 教職員に対し就業規則および給与規定を定め、適正に運用している。
- e. 通常意思決定は管理職が行い、校務の調整は委員会、評議会、理事会といった意思決定プロセスが制度化されており校務運営システムは確立されている。
- f. 学校運営に当っては倫理に即した行動に徹し、コンプライアンスを遵守し、学校としての社会的責任を果たしている。
- g. 教育活動等の情報公開は、職業実践専門課程の推薦に伴い財務情報と同じく公開されている。新教育課程移行後の公表についても修学支援制度取得における情報公開の中で行っている。
- h. 情報システムについては教務用及び学生管理用の2つのシステムを用いており、GPA方式による成績評価への対応など適時ソフトのアップデートを行うことで効率化の向上を図った。今後も情報システムの統合や連携による効率化に加えセキュリティ強化による運用が課題である。

(3) 教育活動

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1
b	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	3	2	1
f	授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1
g	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。	4	3	2	1
h	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1
i	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	4	3	2	1
j	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1
k	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	4	3	2	1
l	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1
m	職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1

《課題と改善策》

- a. 本校の教育理念である社会貢献・人材育成・奉仕の精神に沿った教育課程の編成、実施方針の策定を行っている。設定している卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）をより一層体系的に編成することで、各学科の目標とする国家試験の合格がより確実になるような時間割編成などを行い、更に効果的な実施方針を組み立てていきたい。
- b. 学生が専門的知識や技術を持った上で、医療人として業界や職種や社会のニーズに対応できる人材教育を実践しており、各学科とも修業年限で即戦力のレベルまで達するようにしている。
- c. d. e. カリキュラムに関しては、年2回開催する教育課程編成委員会で外部委員の意見を参考に体系的に編成並びに見直しを行っている。
また、新カリキュラムの対応に当たりキャリア教育の充実を図っており、関連分野の企業、関係施設や業界団体との連携を単発的なものから取り入れている。
しかしながら、外部実習を通した臨床実習の充実はまだ不足しているため、今後は継続して実習が可能となる施設などと提携していく必要がある。

- f. 授業運営の適否を判断し授業システムの見直しをするため、学生による授業評価アンケートを実施している。実施には Google フォームを使ったアンケート方式でスマホを使用することにより学生からの声を聴きやすくする工夫を行った。
その結果は各教員にフィードバックしており、学生の声に対し、より一層の満足度をあげる対策を思案している。
- g. 学校関係者評価委員会を設置し、職業教育に対する外部評価を行い、その内容を次年度にフィードバックしている。
事前の自己評価資料を基に、より活発な意見交換ができるような体制を充実させたい。
- h. 学生の成績評価及び単位認定については、その基準を明確に定め学生便覧などで学生にも周知徹底し、厳正に行っている。
また、進級及び卒業判定においても学科会議などで厳正に行っている。
- i. 各学科において目標としている資格取得に向けて、国家試験合格がより確実となるようにカリキュラムの編成をしている。
今後は、より体系的な指導体制を作り上げ、それを磨き上げていきたい。
- j. 人材育成目標の達成に向けた専門の資格要件、人間力、教授力等を備えた人材の確保はできている。
- k. 各学科の養成施設指定規則に規定された要件を満たす教員の確保をしている。スポーツ科学コースについては引き続き提携企業からスポーツ科学の専門家に指導を受けておりスポーツ分野における教員の充実による医学的根拠を持ったスポーツ指導に力を入れている。
また、今年度来年度と専門分野に特化した非常勤講師を採用しており、さらなる目標の達成を目指している。
- l. m. 年間を通じて、専門分野の実務研修や指導力向上の教員研修、自己啓発研修や企業等が行う研修に参加している。
今後はスタンダードとなるインターネットの活用による学習方法に対しても、専門的な知識・技術の習得が必要となる。

(4) 学修成果

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	就職率の向上が図られているか。	④	3	2	1
b	資格取得率の向上が図られているか。	4	③	2	1
c	退学率の低減が図られているか。	4	③	2	1
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	③	2	1
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

《課題と改善策》

- a. 本学では就職率 100%を目指しており、就職担当者が学生の指導にあっている。
- b. 合格率の向上を図るため国家試験対策ユニットを設け前年度までの反省とそれを踏まえた授業構成の変更、成績下位層の学生への個人担任制度などを行っている。鍼灸学科は合格率 100%であるが、柔道整復学科は合格率が近年低迷しているため、今年度は、より大きなテコ入れとして成績不振の学生を対象に夏季及び冬季での勉強合宿を実施した。
合宿では国家試験の合格には8割の得点率が必要となる必修問題を中心に対策を行い、必修対策冊子及び教科書を基に口頭試問による一問一答形式でインプット及びアウトプットを繰り返すことで知識の定着を図った。
これにより全体的な成績の上昇がみられ始め、それによる学生の勉強への意欲も上昇する好循環が得られている。今後は一般問題の割合も増やしていくことも当然のことながら考えているが、勉強合宿の日程や実施時間の配分など、より一層のシステム構築が必要となる。
それには、コロナ感染対策で活用を始めた Google classroom や Google forms などでのコンテンツの配信や小テスト、前年度より始めた補習授業も併せて活用し、資格取得率 100%を目指す。
また、第2学年次よりの合宿も計画しており、より一層の早い段階から国家試験合格への意識付け及び基礎学力の底上げを図っていく。
- c. 経済的な理由により就職をする者、他にやりたいことが出来た者、単純に学力が追いつかない者、精神的に不安定となった者など、様々な退学理由が述べられているが、学生の中には大学に進学した友人と比較すると専門学校では日々の勉強量が非常に多いと感じられ、大学へ進学した友人が羨ましく勉強への意欲を失ったと述べる者も何人かみられた。
国家試験合格の為に日々の勉強は必要であり、ある程度の努力と苦労は仕方ないのだが、入学時の気持ちを継続させ意欲を失わせないように、鍼灸学科では古典的治療から現代的美容鍼など幅広いニーズに応えた授業を展開していく。柔道整復学科では第1学年次よりスポーツトレーナとしての業務や臨床を踏まえての授業を展開していく。
また、学習面の遅れによる不安や欠席超過が原因で退学に向かわないように、より早い段階での面談を実施することで、細やかなフォローを行う。
さらには、欠席者に対する補習を充実させることで授業について行けない、学業に不安があるという学生を可能な限り減らし、全体の基礎学力向上を目指し、一人の退学者を出すことなく入学者全員を卒業させるべく担任はもとより全教職員が学生全員に目を配り、声をかけて退学率の低減を図っていく。

- d. e. コロナ禍が明けたこともあり教員から卒業生に対して現状確認を兼ねて、電話での近況連絡や、開業されている院への挨拶まわりを行っている。またそれ以外にも、卒業生の動向については卒業後アンケートの実施や広報部からの職場訪問などにより活躍を把握しており、秀でたトレーナー活動実績などを学生ロビーに掲示するなど、在校生の学習意欲のモチベーション向上に役立っている。

(5) 学生支援

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	④	3	2	1
b	学生相談に関する体制は整備されているか。	④	3	2	1
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	④	3	2	1
d	学生の健康管理を担う体制はあるか。	④	3	2	1
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1
f	学生の生活環境への支援は行われているか。	4	③	2	1
g	保護者と適切に連携しているか。	④	3	2	1
h	卒業生への支援体制はあるか。	4	③	2	1
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	④	3	2	1
j	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	③	2	1

《課題と改善策》

- a. 就職希望者における就職率は100%となっている。就職情報は全学年が学生ロビーにて自由に閲覧可能であり就職に対する意識づけを行っている。就職相談者には、就職担当と学生課職員が履歴書の書き方、就職先の選択、会社訪問、面接対策などの指導を行っている。また、企業の人事担当者による学内就職セミナー等を実施している。
- b. 鍼灸学科及び柔道整復学科には各学年ごとに担任が3名配置されている。これにより学生が相談しやすい教員を選べるようにしている。教職員に気軽に相談できる関係性や教員室を訪問しやすい環境作りを構築することで退学率低減や勉強しやすい環境づくりを目指している。また、学生の相談ごとは委員会で情報を共有し素早く問題対応できるようにしている。
- c. 日本学生支援機構の奨学金制度、修学支援制度、学費延納制度や教育ローンの案内などを設け、学生課にて経済的支援体制を構築している。鍼灸学科においては教育訓練給付金の対象となっており社会人が就学しやすい制度も整っている。また、卒業生や在校生が他学科の資格も取得しやすいように授業料減免制度による経済的支援も行っており今年度も多くの学生がWスクールの申し込みを行った。
- d. 学校保健安全法に基づく健康診断を全学生に実施している。
- e. コロナ禍が終わったことで、今年度は高等学校など他校からの柔道の対外練習を受け入れ交流を深めた。また、教職員による行事委員会がスポーツ大会及び学園祭におけるルールなどの概要を立案し、支援体制を敷くことで、学生主体による学友会がそれらを運営した。
- f. 遠隔地出身者からの希望があれば、学生寮運営に実績のある会社の寮を学校提携寮として学生に紹介しており、食事付きなど多彩な学生ニーズに対する生活環境支援を行っている。

- g. 保護者との連携に関して、成績不良者の保護者に対しては成績表の送付を、出席不良者の保護者に対しては電話にて家庭への支援、指導を依頼している。これらの対応をできるだけ早期に行っていく。学生に対して適切な指導や相談を行うためにも、担任より出席及び学習状況並びに生活相談などの連絡を行っている。
また成績表を期末ごとに保護者に送付しており、必要に応じて保護者を含めた三者面談を実施している。
- h. 卒後の再就職相談、施術セミナー及び治療院経営セミナーなどを開催している。国家試験の不合格者に対しても学習環境の提供を行っている。
今後は、同窓会の強化を図り卒業生と連携した卒後教育の充実を図りたい。
- i. 鍼灸院及び接骨院に従事している者が多くの割合を占めているので、昼間部午前・午後コースともに半日制のカリキュラムがターゲットのニーズに合致している。
また、他の職に従事している社会人にとっても半日制度はシフト時間が取りやすいと評価されている。医療系有資格者に対しては学費サポートや既修得単位認定の制度も設けており就労時間が取りやすくなっている。
さらに鍼灸学科においては教育訓練給付金による学費援助の制度もあり、社会人の教育環境は整備されている。
- j. 提携先高校へのガイダンスを兼ねた職業体験授業やテーピングセミナーなどを実施しており。トレーナー活動の随伴なども希望する学生にはアシスタントスタッフとして参加させることで職業教育の取り組みを行っている。

(6) 教育環境

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	3	2	1
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	4	3	2	1
c	防災に対する体制は整備されているか。	4	3	2	1

《課題と改善策》

- a. 設置基準に基づき教室、実技室、スポーツ科学ラボ及びジム、教員室、事務室などを設置している。維持管理については建物の経年劣化に伴う整備を進めている。既に、トイレ、エアコン、Wi-Fi の環境整備に引き続き、校内全ての床面のクリーニング及びワックス作業による環境美化を行った。
前年度より学生ロビーに軽食を購入できる自動販売機を設置したが、より一層、学生のニーズに応えるべく携帯保存食など様々な形式のものを模索している。
- b. 学内においては自習室の確保や実技室開放による自主練習場の確保を行うことで学生の教育環境の整備を進めている。校外における実習施設の確保は順次進めてはいるがコロナ以降は受け入れ先が厳しく停滞している。
前年度に希望者のみで実施した、バンコクでの人体解剖実習も今年度は受け入れがなく実施していない。今後は関連施設での研修の実施など、より一層のインターンシップ環境の整備を進めていきたい。
- c. 前年度より防災責任者を立て危機管理マニュアルを作成し防災設備を整備した。今年度は校内の消火設備の入れ替えを行うことで、さらなる充実を図った。
今後も定期的に避難訓練を実施し、教職員及び学生の防災意識を高めていきたい。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1
c	学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1

《課題と改善策》

- a. パンフレット及び募集要項、ホームページ、SNSなどで適正に広報活動を行っている。高校・高等専修学校へのガイダンスにおいて職業の魅力を伝えることで、オープンキャンパスの参加につながり多くの入学者を確保することができた。
しかしながらスポーツ科学コースにおいてはさらなる周知徹底に努める必要がある。
- b. 各学科の国家試験合格実績や就職率及び就職先についてはHPで公表しているが、オープンキャンパスでの学科説明でも告知している。
また、退学率や留年者数などの詳細情報においても職業実践専門課程に基づき報告書としてHPにて公表をしている。
提携している各種スポーツ分野での学校の活躍はSNS等にアップしており、閲覧者から高い評価を得ている。
- c. 学校の財政基盤に問題が出ないように適正かつ妥当な金額に設定されている。また、各コースにおける学納金についても近隣他校と比較して妥当であると考えている。

(8) 財務

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	3	2	1
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	3	2	1
c	財務について会計監査が適正に行われているか。	4	3	2	1
d	財務情報公開の体制整備はできているか。	4	3	2	1

《課題と改善策》

- a. b. 年度毎の予算編成にあたっては学納金収入等の状況を考慮して予算の配分割合を設定している。中長期的な入学者数と設備維持並びに改修にかかる費用を予測し、事業計画との整合性が十分にとれた中長期計画を策定していきたい。
- c. 学校法人会計基準に則り会計士による資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表などが適正に行われている。また、総勘定元帳の会計処理についての注意点は修正されている。
- d. 財務情報は職業実践専門課程に伴う情報公開をHP上にて行っている。

(9) 法令等の遵守

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。	4	3	2	1
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1
c	自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1
d	自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1

《課題と改善策》

- a. 法令、専修学校設置基準等を遵守し適正に運営されている。
- b. 個人情報に関しては、個人情報保護規程並びにプライバシーポリシーに基づき適切に扱っている。また、教職員の規定遵守はもとより学生にも意識付けを行っている。
- c. 学校評価ガイドラインに則り自己評価を行い、学校関係者評価委員会の開催も行っている。しかながら問題点の改善には至っていない点もあり一層の充実が課題となる。
- d. 学校評価ガイドラインに則り自己評価結果はHPにて公開している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切：4、ほぼ適切：3、 やや不適切：2、不適切：1			
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	3	2	1
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	4	3	2	1
c	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受諾等を積極的に実施しているか。	4	3	2	1

《課題と改善策》

- a. スポーツ科学コースに設置されているラボ及びジムについては地域貢献を兼ねて一般開放している。今年度はコロナ禍が終わったことで、通常での学園祭を近隣住民参加型で開催した。今後も施術体験などを通じて地域住民に本校の資格についての理解を深めていきたい。
- b. c. 今年度はコロナ禍が終わったことに伴い柔道大会やバレーボールなどの各種スポーツ大会への救護活動も再開した。より一層の地域との連携及び交流が、学校の発展につながっていくとの観点で、今年度は、柔道の阿部詩選手や株式会社セレッソ大阪の代表取締役社長である森島寛晃さんを招いて、公開講座を開催した。